

事項六 日露関税協定締結提議関係一件

一三七 三月六日 加藤外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛

日露関税協定及浦潮ヲ一時無税港トナスノ儀
ニ関シ露国政府ニ提議ノ利害ニ付意見問合ノ
件

通機密送第一号

日露兩國ノ政治的関係ハ輓近愈密接ヲ加ヘ来リタルモ通商
関係ハ不幸ニシテ未タ見ル可キ進歩ヲ見サルハ甚タ遺憾ノ
次第ニ有之候処之カ原因ハ多々アル可シト雖モ露国関税ノ
高率ナル事モ亦有力ナル一因ト認メラレ候依テ此際露国ト
関税上ノ協定ヲ為スヲ得バ彼我ノ貿易發展上多大ノ利益アル
ヘキハ勿論延テ兩國政治的関係ノ基礎ヲ愈鞏固ナラシム
ルニ足ルモノアルヘシト思考セラレ候ニ就テハ露国政府ハ
目下ノ場合主義上斯カル提議ニ耳ヲ傾クルノ見込アリヤ及
本件提議ノ利害如何等ニ関シ貴官ノ御意見大体電報ヲ以テ
御回答相成度將又目下露国ハ日本ヨリ軍需品其他ノ供給ヲ

受クル事少カラス候処需給ノ関係上関税ノ如キ事実上買手
ノ負担ニ歸シ居リ露領亜細亜止リノ物品ニ就テモ亦此傾向
ナキヲ得サル有様ニ有之候ニ就テハ若シ戦争中一時浦潮ヲ
無税港トナサバ彼我ノ利益ト便宜少カラサル可シト思考セ
ラレ候ニ付キ此点ノ提議ニ関シテモ亦御意見承知致度此段
申進候也

一三八 三月二十九日 在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日露関税協定並浦潮ヲ一時無税港トナスノ儀
ニ付答申ノ件

附記 大正三年八月二十二日附本野大使宛加藤外務大
臣宛機密往第二〇号

第三五七号

通機密第一号貴信ニ関シ露国トノ関税協定ハ望マシキ事
ナルモ三月二十五日以後関税率ヲ引上ケタル時ニ際シ且露
国政府ハ戦後関税ノ種々劃策スル所アルヤニ聞知シタル事

情ニ鑑ミ本件ニ付提議スルトモ露国政府ハ之ニ耳ヲ傾ケザ
ルベシ

又浦潮斯德ヲ一時無税港トスルノ提議モ客年機密第二〇号
拙信所載ノ通ニテ成効ノ見込ナシト信ス

註 本野大使ノ大正三年機密第二〇号ヲ次ニ附記ス

(附記)

大正三年八月二十二日在露本野大使宛加藤外務大臣宛

浦潮ヲ自由港ト為スコトニ関シ露国当局者ト

交渉ノ結果報告ノ件

機密往第二〇号

(大正三年九月十七日接受)

大正三年八月二十二日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シテハ数週前在浦潮斯德總領事代理ヨリ電報ヲ以
テ問合ノ次第有之其ノ節極東洋部長「コザコフ」氏ハ中央
政府ニ於テ何等從來ノ方針變更ノ議アルヲ聞カサル旨言明
ノ次第有之其ノ旨總領事代理ヘ回答致置候処今回貴電第三
五三号ヲ以テ本件ニ関シ非公式ニ露国当局者ニ交渉ヲ遂グ

六 日露関税協定締結提議関係一件 一三八

一七五

ベキ旨御訓令ノ次第有之候ニ付田付参事官ヲシテ一応同部
長ニ就キ重ネテ本件ニ対スル露国政府ノ意向ヲ尋ネシメ其
ノ模様如何ニヨリ外務大臣ト交渉致度存居候処同氏ハ田付
参事官ノ問ニ対シ本問題ニ関シテハ從來露国内ニ浦潮自由
港説ト課税港説トノ二説アリテ前説ハ浦潮及哈爾濱兩商業
會議所等ノ執ル所ニシテ後説ハ極東ニ於テハ農業者其ノ他
多数露国人欧露ニ於テハ莫斯科「ロツヅ」(Lodz)等工業
中心地ノ実業家ノ執ル所ナリ露国政府カ浦潮ヲ以テ課税港
ト定メタルハ右兩説ニ十分考量ヲ加ヘタル結果ニ基クモノ
ニシテ其ノ後浦潮及哈爾濱兩商業會議所ヨリ再三浦潮自由
港ノ請願アリタルモ政府ハ常ニ其ノ方針ヲ變更スルコトナ
カリシヲ以テ今回ノ時局ニ際シテモ政府ハ俄ニ其ノ從來ノ
方針ヲ變更スヘシトハ思ハレス又目下ノ処變更ノ必要ヲ認
メス尤モ這般請願アル毎ニ大藏省ヨリ之ヲ外務省ニ廻附ス
ル慣例ナル処今回ノ浦潮及哈爾濱兩商業會議所ノ浦潮自由
港ニ関スル請願ナルモノハ未タ其ノ廻附ヲ受ケサルニ付不
日大藏省当局者ト会谈ノ上更ニ何分ノ儀回答ニ及フヘシト
答ヘ申候

右ノ通ノ次第ニテ此ノ際本件ニ関シ交渉ヲ開始スルトモ成

六 日露関税協定締結提議關係一件 一三九

効ノ見込無之候ニ付其ノ旨往電第四七〇号ヲ以テ具申ニ及ヒタル次第ニ有之候尤モ時局ノ發展如何ニヨリ或ハ本件ニ對スル露国政府ノ意向變更スルヤモ難計候ニ付常ニ本件成行ニ留意シ必要ノ場合ニハ更ニ開談可致候
右及報告候 敬具

一三九 十月二十三日

石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛(電報)

日露関税協定締結ニ関シ露国政府へ開談方訓
令ノ件

附記

十月二十六日農商務省岡商工局長ヨリ外務省

坂田通商局長宛半公信

日露関税協定問題ニ関スル件

附記附屬 右問題ニ関スル大蔵省調書

第四一一号

露国ト関税協定ノ件ニ関スル貴電第三五七号貴見ノ次第諒承セリ然ルニ本件ハ日本カ目下時局ヲ利用シ施設スヘキ重要ノ事項ニ属シ殊ニ輓近兩國通商關係漸ク増進ノ事實ニ鑑ミ此際是非有利ナル解決ヲ得タキニ付貴官ハ本年三月六日附通機密送第一一号前段ノ趣意ニヨリ最近適當ノ機会ニ於テ当局者ニ本件ヲ開談セラレ先ツ主義トシテ関税協定ノ交

一七六

渉ニ応セシムル様充分御尽力ノ上何分回電アレ
(附記)

十月二十六日農商務省岡商工局長ヨリ外務省

坂田通商局長宛半公信

日露関税協定問題ニ関スル件

復啓日露関税協定問題ニ関シ御来示之趣敬承新大臣之御意向洵ニ結構ト存シ候就テハ御申越之大蔵省調査ニ係ル協定スヘキ商品及税率調書封入御返戻致候ニ付御入手有之候
右貴酬迄 草々敬具

十月二十六日

岡 実

坂田局長殿

(附記附屬)

日露関税協定問題ニ関スル大蔵省調書

露国ニ對シ税率協定ヲ要スル本邦生産品

日露戦争當時西伯利亚地方ハ関税自由地帯ナリシカ千九百九年(明治四十二年)三月一日ヨリ露本国輸入税ノ大部分ヲ同地方ニ実施シタリ然レトモ輸入税全部ノ実施ヲ見サリシヲ以テ蔬菜果実類ヲ同地方ニ輸入スル場合ハ今尚ホ課税

計

四、四一五、二四七

(欄外註記) 「伊国協定ハ千九百八年一月^四/_{一七}日ヨリ効力ヲ

生シ有効期間ハ千九百十七年十二月^四/_{一八}日迄ナ

リ

一八五紡績絹織糸

税率

染色セサルモノ毎ブード 六〇、〇〇留

(毎百斤
二二六円八五)

協定税率

ナシ

本邦希望税率ブード

五、〇〇留(毎百斤
一八円九〇)

大正二年輸出額

四八四円

一九五羽二重

税率毎フント

一二、四〇留(毎百斤
一八七五円〇〇)

仏国協定税率毎フント一〇、〇〇(毎百斤
一五一二円〇九)

該協定税率ハ千九百六年二月ヨリ実施シ何時ニ

テモ締盟国ノ一方ヨリ終了セシメ度キ旨ノ通知

ヲ発シタル後一ケ年ヲ経過スレハ効力ヲ失フモ

ノトス

セラレサルモノトス此際露国ト協定ノ場合ニ露本国ヘノ輸

入品ト西伯利亚ヘノ輸入品ニ對スル税率ヲ區別シテ協定シ得ルノ見込アラハ西伯利亚ニ輸入スル綿布漁網及綿メリヤス製品ニ對シ関税ヲ撤廃セシメ尚ホ本邦ノ特産品タル生糸紡績絹織糸及羽二重ニ對シテハ露本国ニ輸入スルト否トヲ別タス一般ニ輸入税率ノ低減ヲ要求スルヲ得策トス

(甲)税率ノ低減ヲ要求スベキ物品

一八〇生糸

税率 毎ブード 一〇、〇〇留(毎百斤
三七円八〇)

但本税率ハ実施後三年ヲ経過スレハ二〇、〇〇
留ニ引上ケ爾後二年ヲ経過スレハ三〇、〇〇留
ニ引上クベシ

伊国協定税率 八、〇〇留(毎百斤
三〇円二一)

本邦希望税率 五、〇〇留(毎百斤
一八円九〇)

大正二年輸出額

機械製細糸 七五一、一二五円

同 太糸 三、六二三、三六〇

玉糸 三、七八九

其ノ他 三六、九七三

六 日露関税協定締結提議關係一件

一三九

一七七

六 日露関税協定締結提議關係一件 一三九

本邦希望税率毎フント五、〇〇(毎百斤七五六円〇〇)

理由

生糸ニ関スル伊国ノ協定ハ今後二ヶ年ニシテ消滅ニ帰シ羽二重ニ関スル仏国ノ協定ハ何時ニテモ締盟国ノ一方ヨリ破棄スルコトヲ得ベキニ依リ是等ノ協定ニ均霑シ置クハ不安心ナルヲ以テ更ニ低率ノ協定ヲ締結スルノ要アルヘク又紡績絹織糸ハ目下輸出額少キモ将来有望ナルヲ以テ新ニ協定ヲ為シ置クノ要アリ

(乙) 西伯利亞ヘノ輸入ニ対シ輸入税ヲ撤廃ヲ希望スル物品

一八七ノ内

綿織物(生地又ハ漂白ノ)

一 重量一フントニ対シ八平方アルシンヲ超エサルモノ(即百平方メートルニ付一〇、一二キログラムヲ超エタルモノ) 毎フント〇、五七 $\frac{1}{2}$ 留(毎百斤八六円九五)

二 重量一フントニ付十二平方アルシンヲ超エサルモノ(即百平方メートルニ付六、七五キログラムヲ超エタルモノ) 毎フント〇、九〇留(毎百斤一三六円〇九)

協定税率 ナシ

大正二年露領亜細亞ヘ輸出額

一七八

白木綿

四一、七九八

綾木綿

六五、五二六

生金巾及生シーチング四三四、七一

計

五四二、〇三五

一八八ノ内

綿織物(染色、捺染又ハ「マーセライズ」シタルモノ)

一 重量一フントニ対シ八平方アルシンヲ超エサルモノ 毎フント〇、九八留 (毎百斤一四八円一八)

二 重量一フントニ対シ十二平方アルシンヲ超エサルモノ 毎フント一、二五留 (毎百斤二〇四円一七)

協定税率 ナシ

大正二年露領亜細亞ヘ輸出額

色木綿

五八円

手拭地

九三

被褥布

九三〇

綿縮

四〇二

綿フランネル

六五八

緋金巾

七四〇

其ノ他ノ綿織物

三三五、八〇〇

但此内ニハ生地又ハ漂白ノモノヲ含ミ居ルヤモ図ラレザルモ統計ニ内訳ナキヲ以テ区別シ難シ

計

三三八、六八一円

一九〇ノ内

漁網

毎ブード

一、〇五留(毎百斤三円九七)

協定

ナシ

大正二年露領亜細亞ヘ輸出額

漁網

一一二、二九八円

二〇五ノ内

綿メリヤス類

税率 毎フント

一、五〇留(毎百斤二二六円八〇)

独逸協定 同

〇、七五留(毎百斤一一三円四〇)

大正二年露領亜細亞ヘ輸出額

綿メリヤス肌衣

六、一九三

六 日露関税協定締結提議關係一件 一三九

手袋(綿メリヤス製ト看做ス)

一一、九〇九

靴足袋(綿メリヤス製ト看做ス)

一二、七三〇

計

三〇、八三二

追加

一三ノ内

醤油

税率一ブード

一〇、〇〇留(毎百斤三七円八〇)

協定

ナシ

大正二年輸出額 九六、九七九円

露国ト協定シ得ベキ本邦輸入品

五二ノ内

魚介類(罐詰鱈詰及壺詰)

鮭鱒及キアヴィアーノ罐詰

現行税率

從価四割

協定シ得ベキ最低度 同二割

大正二年罐詰鱈詰及壺詰ノ総輸入額

三七、〇九七円

同

露領亜細亞ヨリ輸入額 六七

但露領亜細亞ヨリノ輸入額ハ鳥獸肉ノ罐詰鱈詰

一七九

六 日露関税協定締結提議關係一件 一三九

及蜜詰ト共ニ統計シアレトモ全部ヲ魚介類ト看
做セリ

六九毛皮

一綿羊皮及山羊皮

現行税率

九円四〇（四割）

協定シ得ベキ税率

七、〇五（三割）

大正二年総輸入額（其ノ他ノ
毛皮ヲ含ム）

六五、二五三円

同露領亜細亜ヨリ輸入額

（其ノ他ノ
毛皮ヲ含ム） 一七、一二三円

二其ノ他

現行税率

從価四割

協定シ得ベキ税率

從価三割

大正二年輸入額前統計ニ合計

七一獸皮

二鹿皮

現行税率毎百斤

一円九〇（五分）

協定シ得ベキ税率

無税

大正二年総輸入額

一二二、七一三

同 露領亜細亜ヨリ輸入額

一、七一〇

モ同地ヨリ輸入ノモノハ殆ント全ク白楊ト見テ
可ナラン

白楊ハ又其ノ他ノ地方ヨリハ輸入ナキヲ以テ前
記統計ヲ白楊ノ総輸入額ト見テ可ナラン

一四〇 十二月四日

在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛

日露関税協定締結ニ露国政府不同意ナル旨報

告ノ件

附 記

大正五年五月十七日大阪商業會議所ヨリ石井

外務大臣宛

日露関税協定ニ関スル意見開申書

機密往第二八号

（十二月二十二日接受）

大正四年十二月四日

在露特命全權大使男爵 本 野 一 郎（印）

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本件ニ関シ本年三月六日付通機密送第一一号及貴電第四一
一号ヲ以テ御訓令ノ趣敬承本件ニ付テハ往電第三五七号
（三月二十九日發）ヲ以テ卑見及具申置候処更ニ御訓示ノ
次第モ有之候義ニ付露国外務大臣ニ面会ノ上縷々我商工業

六 日露関税協定締結提議關係一件 一四〇

一八〇

三山馬皮

現行税率 毎百斤

一円二五（五分）

協定シ得ベキ税率

無税

大正二年総輸入額

一三、〇八一円

同 露領亜細亜ヨリ輸入額

三九六

四六七亜鉛

四屑及故（改造適用ノモノ）

現行税率 毎百斤

〇四〇（五分）

協定シ得ベキ税率

無税

大正二年総輸入額

三二二、八六七円

同 露領亜細亜ヨリ輸入額

一、二二七円

六一二木材

壬其ノ他

白楊

現行税率 從価

一割五分

協定シ得ベキ税率

無税

大正二年露領亜細亜ヨリ輸入額一〇二、八九六円

前記統計ハ「バイン」「フアー」及「シダー」ヲ

除ク其ノ他総テノ木材ヲ統計シタルモノナレト

者ノ立場ヲ説明シ先方ノ意嚮ヲ確メ然ル上及交渉候方可然
ト認メ外務当局者ト懇談ヲ遂ケ候処該当局者ニ於テハ大蔵
省及商工省トモ協議ヲ重ネタル趣ニテ本官迄内示シ来リタ
ル報告ニ依レハ当国政府ニ於テハ数年来既ニ国定税率ニ遵
ルノ主義ヲ確定シ居リ露独開戦ノ結果從來兩國間ニ存シタ
ル関税協定ノ消滅ニ歸シタルヲ機トシ今後ハ一層右ノ方針
ニ依リ一切ノ関税協定ヲ排斥スルコトニ決定シ居レル処若
シ帝國政府ノ希望ニ応ジ関税ヲ協定スルヲ承認スルニ於テ
ハ他ノ列強ヨリ同様ノ提議アリタル場合ニ之ヲ拒絶シ能ハ
サルコトト可相成ニ付遺憾乍ラ帝國政府ノ申出ニハ応ズル
能ハサル趣ニ候右ノ次第ニ付此際公然ノ交渉ニ及ブモ到底
成功ノ見込無之ニ付本問題提出ノ義ハ当分御見合セ候方可
然ト思考致候此段回報得貴意候 敬具

（附 記）

大正五年五月十七日大阪商業會議所ヨリ石井外務大臣宛

日露関税協定ニ関スル意見開申書

大阪商業會議所

戦乱勃發後我カ対露貿易ハ軍需品ヲ始メ各種雜貨ニ至ル迄
急激ニ増加シ敦賀港並ニ大阪港ヨリノ輸出貨物ハ現ニ左表

一八一

[illegible]

斯ノ如キ高率ノ関稅ヲ課セラルルニ於テハ運賃其ノ他ニ於テ巨額ノ費用ヲ要スル我國ノ製品ハ到底歐洲諸國ト競争ス

ルコト能ハサレハ此際両國貿易品中相互ニ關係ノ最深キ
主要品目ヲ撰ミ適當ニ関稅ヲ協定シ以テ相互貿易ノ利便ニ
資セラレンコトヲ

大正五年五月十七日

大阪商業會議所会頭 土居通夫（印）
外務大臣男爵 石井菊次郎殿

事項七 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件

一四一 一月二十三日 加藤外務大臣ヨリ
在ヴァンクーヴァー阿部領事宛電報

東洋人卜白人卜ノ結婚許可証二付問合ノ件

第一号

新聞電報ニヨレハ貴地方ニ於テハ白人ト東洋人間ノ結婚許可証ハ州政府ノ許可ヲ待タサレバ与ヘサル事トナセル由右ハ如何ナル事情ナリヤ回電アレ

一四二 一月二十三日 在ヴァンクーヴァー阿部領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

東洋人卜白人卜ノ結婚許可証二関スル件

第四号

貴電第一号ニ関シ表面ノ理由ハ近来自婦人ト東洋人間ニ結婚屢々行ハルルヲ以テ其取締方法トシテ州内各地方 Sheriff ニ対シ左ノ内訓ヲ発シタリト云フ

In future no licenses to marry where one of the parties is Asiatic and the other of the white race are to be granted until after the application has been referred

七「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 一四一 一四二 一四三

to the head office in Victoria. Term "Asiatic" is described as embracing Chinese Japanese and East Indians.

オタワへ電済ミ

一四三 一月二十八日 加藤外務大臣ヨリ
在ヴァンクーヴァー阿部領事宛

英領コロンビア州官憲ノ東洋人白人間結婚ニ

対スル真意確メ方訓令ノ件

通送第一号

B・C州官憲カ州内「シエリフ」ニ対シ爾今日本人支那人又ハ印度人ト白人種間ノ結婚ハ一旦州庁ニ照会シタル後ニ非レハ許可ヲ与フヘカラストノ内訓ヲ発シタル件ニ関シ貴電第四号御報告ノ次第有之候処右ハ自然日本人白人間ノ結婚ニ対シ之ヲ禁止若クハ制限ヲ設クルノ意ニ出デタルモノニハ無之候哉其辺承知致度候ニツキ貴官ハ可然方法ニヨリ本件内訓ニ関スル真相御確メノ上御意見ト共ニ御申出相成